

産地戦略

実施期間 令和4～5年度

実施主体 大分県
都道府県 大分県
対象地域 県内全域
対象品目 イチゴ（施設）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

* いちごは、本県の重要推進品目として、県内全域で40ha栽培されている。これまで、天敵昆虫のハダニ防除への導入や、ミツバチの受粉作業への活用等により、生産力向上と環境負荷軽減の両立を図るグリーンな栽培品目としての地位を確立してきた。

しかし、アザミウマやアブラムシ等の難防除病害虫の防除は、なお農業に依存せざるを得ない状況である。産地では、抵抗性害虫の出現による防除効果の低下に加え、天敵昆虫やミツバチの定着不良などの問題も発生しており、生産者や養蜂業者を中心に非化学的防除技術の導入による、さらなる化学農薬使用回数の削減が強く求められている。

そこで、環境に優しい持続可能ないちご安定生産の実現のため、本事業では、県内での普及実績が極めて少ない非化学的防除資材の中で、特に、アザミウマやアブラムシへの高い防除効果が期待できる光反射資材や天敵昆虫の導入し、化学農薬の使用量の低減による環境負荷低減に配慮した持続可能な生産体制を県内全域での推進を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルへ記載のとおり												
技術名	カブリダニを利用したハダニ類の防除、ミツバチ、天敵への影響日数を考慮した薬剤散布体系												



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R3	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	40 ▶ 35		
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0 ▶ 7		
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0 ▶ ー		
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0 ▶ 7		

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	天敵資材、光反射資材を活用したIPM技術	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	12	▶ 9	アブラムシ用薬剤 3 → 1 回、アザミウマ用薬剤を 4 → 3 回に削減

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

①環境への負荷を軽減し、②薬剤抵抗性害虫の発達を回避し、③農薬散布の労力を軽減し、④安定的な生産を実現するため、実証したアブラムシ、アザミウマ、ハダニ に対するIPM技術（マニュアル）を活用しながら、JA、各地域の普及指導員、試験場と連携し、イチゴ栽培への普及と進めていく。

関係者の役割

関係者名	生産者部会	農協	県（振興局）	県（試験場）
役割	部会内での情報共有、情報交換、関係機関との連携等	研修会の企画、調査補助、部会員への文書発送等	調査の実施、研修会の講師として情報提供、技術指導等	資材の技術情報の提供、調査方法の支援、専門的な助言等